



1万5000mと3千mで世界新記録を出した王軍霞(左)と1500mで世界新記録を出した曲雲霞=WFP

「犬シチュー」の味と栄養

サラリーマンとはつらいものだ。遅い夏休みを終えて戻ってみると、取材を命ぜられたのは「犬料理」。編集部では完全に「イカモノ食い」扱いだったのだが、実は大変な健康食品らしい。遊びすぎて少々夏バテ気味の体をリフレッシュさせるためにも、「犬料理」に挑戦だ。

きっかけはAFP、ロイターなどが報じた記事だ。

今月初め、北京で開かれた中国全国運動会で、中国の女子選手が陸上の中、長距離三種目で世界新記録を連発した。驚異的な記録に、海外の陸上関係者からは薬物使用疑惑の声まで出た。選手を育てたコーチは、

「成功の秘訣は、科学的ハードトレーニングと食事療法」と疑惑を否定したのだが、その食事療法で使われたのが犬のシチュー。さらには「冬虫夏草」といわれる漢方薬のドリンク剤やスッポンと伝えられた。

「世界新記録を連発させた犬料理」に異常なまでの関心を示した編集長の一言で、犬料理への挑戦となった。

とはいえ、いったいどこに

行ったら食べられるのか。

まず、中華料理店に聞いてみた。何軒目かで、犬料理をつくったことがあるという人がいた。

都内の中華料理店に勤める湯坤玉さんは、

「台湾では薬膳料理として犬と白菜や漢方薬と一緒に煮たスープを食べる。味付けはほとんどしないが、漢方薬のせいで臭みもないんです」

中国や台湾で、犬の肉は「香肉」。犬料理専門店もあるが、一般の中華料理店で、メニューになくても「香肉ください」といえば出てくるそうだ。食用として養殖されているものもあるが、野生もあるという。いまだにペットとして人気のあるチャウチャウ犬も、もとは食用だった。

中国の犬料理の歴史は古い。明治時代の衆議議員で食通として知られた木下謙次郎氏の著書『美味求真』によると、約二千年前の前漢時代には犬は武士の食べ物だった、と書かれている。

中国の古文書などを集めた『和漢薬』（赤松金芳著）に